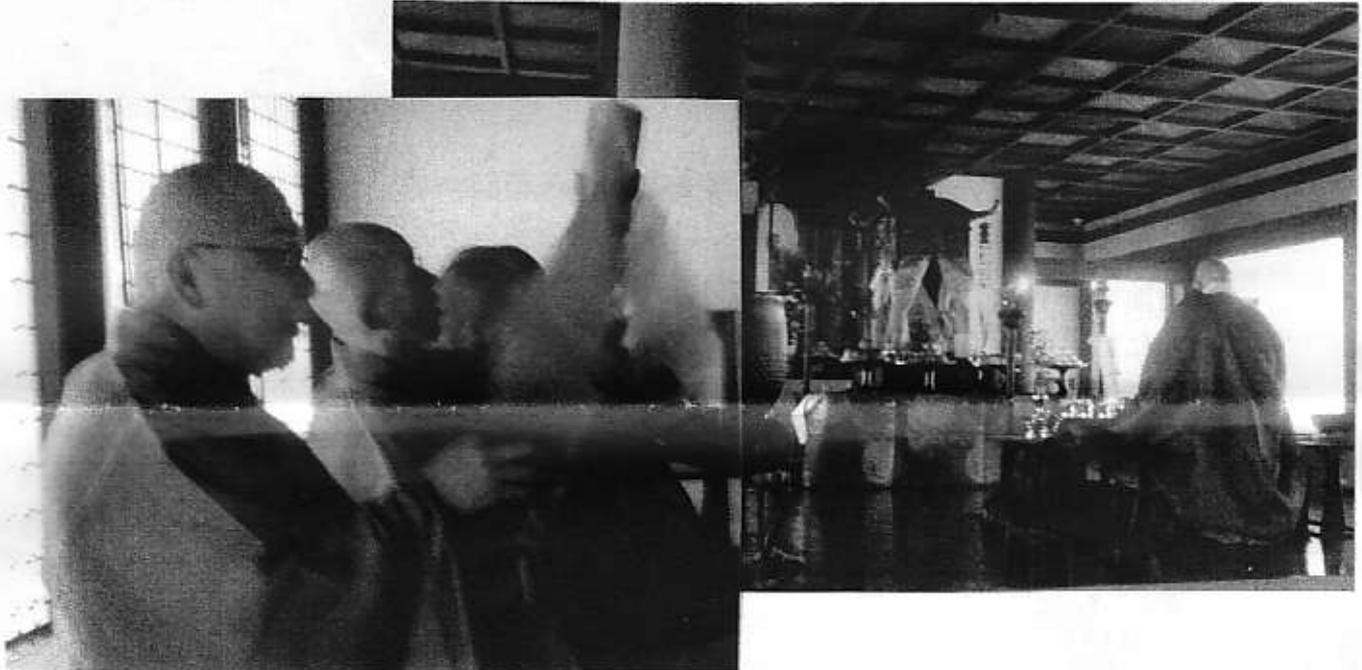


1、唐招提寺の大般若会



昨年に続き今年も『唐招提寺の大般若会』に参加してきた。新年早々に同じ年の従兄弟が亡くなりショックを受けていたこともあるが、ほんの30人程度が集まる昔ながらの法要が心に染みるためでもある。お祭り騒ぎでは気が滅入る。

定刻にうしろの紙障子が閉まり、コツコツと合図の音で法要となる。導師の僧の理趣経の低い声に覆せるように衆僧が大般若経を一巻ずつ読み上げていく。

堂内に電気はなく、油皿の灯火が数灯では周囲の紙障子の方が明るい。そのため、衆僧が昔ながらの大般若経を空中に広げると虫食いの様子が透けて見える。同じことが数十分も繰り返されるので、気の短い観光客は出て行ってしまいが、暖房もない中、足の痺れも忘れてじっとしているのも悪くはない。

それにしてもこんな行事を誰がこしらえたのか？ 翻訳した三蔵法師玄奘ではないだろうか、日本へもたらした鑑真和上だろうか？

次第に声が収まり、数多くの真言が唱えられる。インドや中国の神仏が唱えられるのは当然としても日本の大小の神祇までもが登場した。般若心経を三回通読して法要は終了。

お札を頂いて外へ出る。人が少ないためか門番の小父さんが話しかけてくる。鑑真和上の古里の花(ケイカ)が咲くときのこと、古代の大賀ハスが咲くところ。自分が一番好きな紅葉鑑賞スポット等々。話の中で無料で頂ける『お守り』を教えてもらったので、金堂に置かれているのを頂いてきた。少し気分が収まった。



奈良リコーダー フェスティバル

2013
1/20日

14:00~(開場/13:30)
大和高田・さざんかホール(小ホール)
[0745-53-8201]
※近鉄大阪線大和高田駅下車徒歩10分
※近鉄南大阪線高田市駅下車徒歩12分
※JR高田駅下車徒歩4分

昨年秋、三重の鈴鹿で再会した北村俊彦先生の誘いで「奈良リコーダー・フェスティバル」を参観して来た。会場は「高田さざんかホール」。

出演者全員50名の大合奏があり、小グループが次々と音楽披露をした。関西にはリコーダーの小アンサンブルが多く、奈良にも沢山あると判る。

招待演奏に『全日本リコーダー』から「アッリエーヴォ」が来て演奏した。一段も二段も格が上で、私の前の列の女の子など思わず立ち上がって聞き、終わっても興奮覚めやらぬ様子で、父母たちに感想を述べていた。

この違いは様々あろうが、中心は「呼吸法」にあると思われる。関西で一般的な「抑圧された静かな音」「純正律の美しい和音を求める呼吸」だけではないものがある。奈良の今後の発展を祈りたい。私も協力します。

静岡のコンテストは第39回

恒例の静岡のリコーダー・コンテストがAOI静岡音楽館で開催された。今年で39回目。来年は40回である。

最初は駿府城内にあった『静岡児童会館』で、北島館長が「子供たちの仲間づくり」として始められたもの。北島先生は私の指導教官だから、私もお手伝いとして参加してきた。

全国コンテストに数人を送るようになり、学校単位が多くなったが、家庭や地区を母体にしての参加もあり、伝統が残っている。

来年の記念大会に大勢が参加することが望まれる。第一回に参加した人は今では50歳位だろうか？昔を思い出して参加してほしい。

京都のコンサート・ホールのように「AOIのパイプ・オルガン」と会場全員の参加者によるリコーダー合奏もやってみたい。



3、茶屋夫妻 パズルの答え 客に聞き

新聞に載っていた句だが、きっとあの店だと思った。いつも抹茶を購入する店である。

近ごろ、物の販売は間違いなく受け渡しが出来れば終わり、機械で済むならその方が安上がりで人件費も抑えられる、となってきた。人が扱う場合も機械同様が大切で、店員の丁寧語や笑顔は全て販売促進のためのもの。仕事を離れば他人顔となるから、町で出会って「こんにちわ」などと声を掛けても無視される。

上記の茶屋はその反対で、今でも人情が失われていない。クロスワード・パズルは客が来ないときの暇つぶしかもしれない。あるいは途絶え勝ちになる夫婦間の会話促進のためかもしれない。しかし、一番大切なのはお客との交流であろう。品物だけを売るのはなく、心も添えている。パズルの答えが欲しいのではなく、パズルを仲介にして客と会話しているのである。

時代と共にこうした店は失われてきた。私が住む斑鳩町には法隆寺前に並松(ナンマツ)商店街。それに続く街道沿えに龍田商店街。JR法隆寺駅前近くには法隆寺北商店街などがあったようだが、現在も営業している店は少ない。購買客が近郊の大型店に流れ、店を継ぐ若者は自宅に戻らない。昔は当然だった心の連携が弱くなり、利己的で公共心が薄い。

賑わっている大型店といえど砂漠のようなもので、何が原因か知らぬが、公衆の面前でのしり合い喧嘩している人をよく見かける。感謝どころか、譲り合い許し合う気持ちも失せた人が多くなっているのだろう。

美装も美食も贅沢品も金さえあればすぐに適う社会だけど、人の心が失せて、壁に向かってしまうようではつまらない。「ありがとうございました」の売り娘の挨拶が空々しい。

鹿寄せ【奈良公園飛火野】



~しあわせ回廊 なら瑠璃絵~
【奈良公園一帯】



2月中旬~3月上旬

奈良菅原の里 盆梅展



4、わが死因は交通事故？

昔話だが、目が不自由な人に「提灯に火を入れて呉れ」と頼まれた親父さん、「あんたなら、提灯なんか無くても歩けるだろうに」というと、「私しゃ夜も昼も大丈夫ですけど、これを持って歩かないと目明きが私にぶつかって来るのです」とのこと。

今の私も似たようなもので、夕方、駐車場から帰る百数十mが危険地帯である。そこで、懐中電灯を前後に振って光らせながら歩いて帰る。(反射ベルトは忘れやすい)

この住宅地の道は、曲がりくねり小坂が連続していて、街灯も車の前照灯も威力がない。ゆっくり安全を確かめて走る車は少数派で、多くは音もせず近づき、歩行者を見て急ハンドル。さらにスピードをあげて逃げ去る。

「オッカネエナア わが死因 交通事故に違いなし」とつぶやきながら帰る。

奈良の俳句と川柳

(まだ旧年詠が多い)

飛火野を駆け行く鹿の息白し
薬師寺の鐘を聞きつつバス発車
古寺巡礼 仏に罪を着せに行く
陵の濠を塙と浮き寝鳥

鑑真の戒壇寂と鶉(鶉)の声
群青の奈良の東天 白き月
人麻呂の涙か 句碑を濡らす雨
橘の歌 口ずさむ濠の鳥



暮れ早し 墨絵のような二上山
稲荷社の奥へ奥へと雪ばんば
雨のあと 雪に変われり 椿井城
若草の山に四角の雪積もる
大吉が出るまでハシゴ 初詣
次々と神鈴続き 里の春
古希迎え ギアを落としてお亀の湯
「どうしたん?」孫に覗かれ背が伸びる

東大寺 抱き締めるごと寒の月
うっすらと雪美人なり 宇陀の山
廃家朽ち 径も尽きたる冬吉野
わが家にも香り吉野の祝い箸
鰐口をうまく鳴らせず 初詣
一斉に墨擦る音や淑気満つ
御所柿を育てし農夫 誇る皺
『御名御璽』誰も知らずに会を閉め



一月 銭湯会話

「ナンヤ知らんけど しごきの話が多いですナア」
「アンナモンどう仕様もオヘン。マスコミが面白がって暴いてハる」
「ケド、それを見て楽しんでハる人も大勢イテハるヤロ」
「しごき、無くすんヤッタラ、五輪を一輪にして、毎年、世界中で大会をして、金メダルを仰山作って、欲しい人にタダであげる。」
「ソナン意味ないヤンカ!」
「意味なくせば、しごきもノウなるヤロガ。」
「国や学校の名誉はドウナルン?」
「そこが問題や。みんなが望むサカイに、しごきが増えるんヤロ。」
「スヤケド 死んだらアキマヘン!!」「ホンマデッセ!!」

行基の寺

いろは写経 千佛供養 國の寺

法相宗

別格本山

喜光寺

毎月二日縁日

電話0742-46-4630